

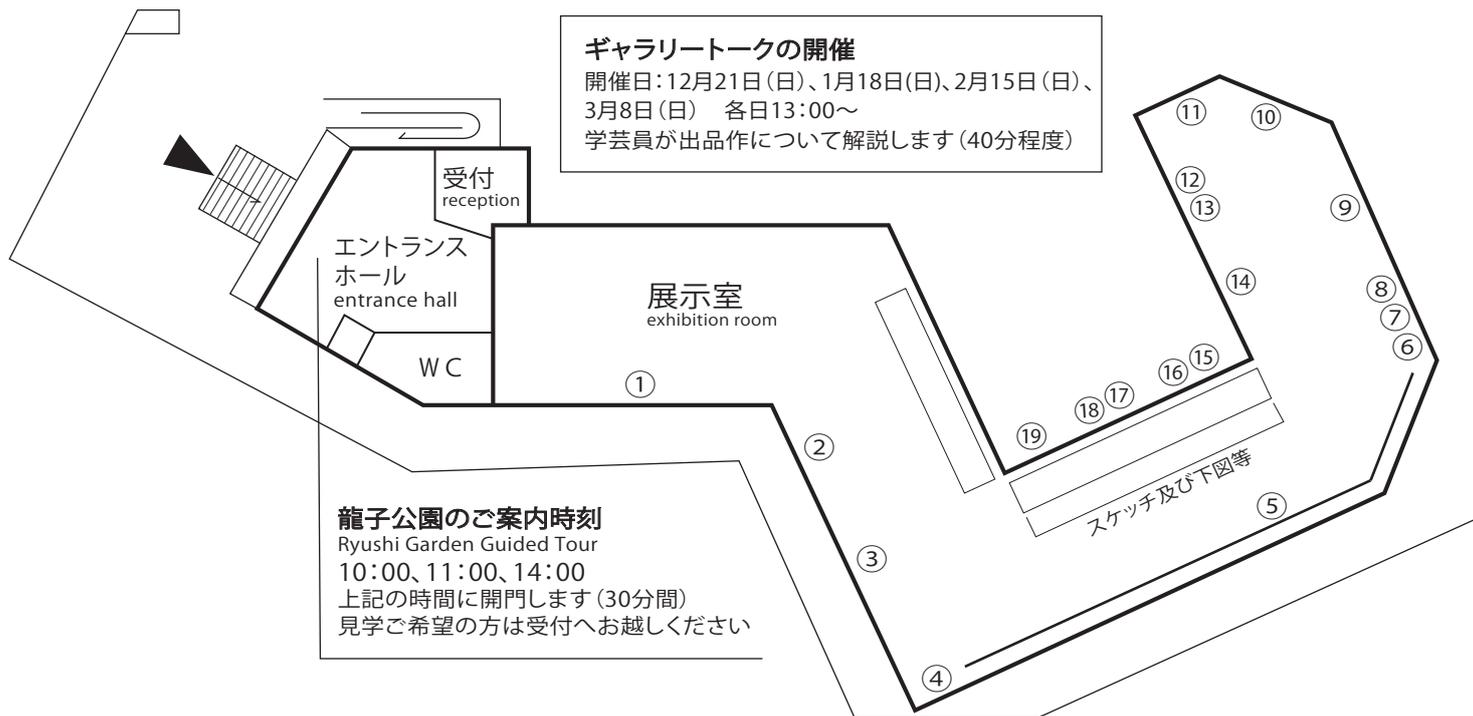
大田区立龍子記念館

名作展「源流へのまなざし モティーフで見る川端龍子」

2025年12月6日(土)～2026年3月8日(日)

Ryushi Kawabata Exhibition | December 6, 2025 – March 8, 2026
“Challenging the Original: The imagination seen in motifs he depicted” Ryushi Memorial Museum

Japanese painter Ryushi Kawabata (1885–1966) is known for his large paintings with bold strokes that have a powerful impact on all who behold them. However, Ryushi left behind a diverse range of works, including pieces that overflow with narrative elements, fantastic scenery conjured up by the artist's rich imagination, and paintings that showcase his capacity for seeing through kind eyes.



展示作品

作品名	Title	制作年／年齢	サイズ(縦×横)	形状	出品展
①「龍安泉石」	Stones of Ryoanji Temple	1924年(39才)	各 185.9×419.4 cm	紙本彩色 屏風・四曲一双	再興第11回院展
②「阿吽」	The A-Um Pair of Lions	1918年(33才)	各 166.6×170.0 cm	絹本彩色 屏風・二曲一双	第4回院展試作展
③「虎の間」	Tiger Room	1947年(62才)	245.4×727.2 cm	紙本彩色 額装・六枚一面	第19回青龍展
④「千里虎」	Tiger goes over a thousand miles	1937年(52才)	50.4×58.7 cm	紙本彩色・軸	
⑤「逆説・生々流転」	Flow of Life - A Paradox	1959年(74才)	48.3×2806.1 cm	紙本墨画淡彩色 額装・八枚一面	第31回青龍展
連作「吾が持仏堂」より3点		“My Household Temple” Series			
⑥「不動尊」	Fudosen	1958年(73才)	89.6×66.9 cm	紙本墨画金彩色・額	第29回ヴェネツィア ビエンナーレ
⑦「多聞天」	Tamonten	1958年(73才)	88.2×67.0 cm	紙本墨画金彩色・額	第29回ヴェネツィア ビエンナーレ
⑧「燈明」	Votive Lights	1958年(73才)	88.1×67.0 cm	紙本墨画金彩色・額	第29回ヴェネツィア ビエンナーレ
⑨「やすらい」	Peace and Beatitude	1958年(73才)	242.0×728.0 cm	紙本彩色 額装・六枚一面	青龍社創立30周年 記念展
⑩「山葡萄」	Wild Grapes	1933年(48才)	174.0×220.0 cm	絹本彩色・額	第5回青龍展

大田区立龍子記念館 Ryushi Memorial Museum

名作展「源流へのまなざし モティーフで見る川端龍子」 2025年12月6日(土)～2026年3月8日(日)
Ryushi Kawabata Exhibition "Challenging the Original: The imagination seen in motifs" | December 6, 2025 - March 8, 2026

作品名	Title	制作年/年齢	サイズ(縦×横)	形状	出品展
①「仏誕像」	Birth of Buddha	1964年(79才)	119.3×179.5 cm	紙本彩色 額装・四枚一面	第32回春の青龍展
②「風神」	Wind God	不詳	137.4×69.6 cm	紙本彩色・額	
③「雷神」	Thunder God	不詳	137.4×69.6 cm	紙本彩色・額	
④「眠猫」	Sleeping Cat of Nikko Toshō-gu Shrine	1933年(48才)	66.5×85.8 cm	絹本彩色・軸	第3回龍子個展 [日光に題す]
⑤「三申図」	Three Wise Monkeys of Nikko Toshō-gu Shrine	1955年(70才)	47.0×72.9 cm	紙本彩色・額	第5回連作奥の細道 点描展
⑥「日光杉並木」	Cedar Avenue of Nikko	1955年(70才)	98.5×48.0 cm	絹本墨画淡彩色・額	第5回連作奥の細道 点描展
⑦「陽明門」	Yomeimon Gate	1955年(70才)	104.0×84.5 cm	紙本彩色・額	第5回連作奥の細道 点描展
⑧「裏見の滝」	Back-Viewing Fall	1955年(70才)	112.0×84.0 cm	紙本彩色・額	第5回連作奥の細道 点描展
⑨「白河の関跡」	The Ancient Site of the Shirakawa Checkpoint	1955年(70才)	151.0×72.0 cm	紙本墨画淡彩色・額	第5回連作奥の細道 点描展

本展の解説より

■狩野探幽《群虎図》のうち「水呑の虎図」を画中に引用した《虎の間》

本作は、京都・南禅寺の小方丈にある障壁画、狩野探幽《群虎図》(江戸時代、重要文化財)のうち、最も有名な「水呑の虎図」を画中に引用した作品です。画面中央で、スケッチブックを抱え、襖の手前に立つ人物が龍子本人です。龍子は1947年8月9日の東京新聞で探幽の「ただの模写ではなく、自分の虎を描きたい」と述べています。探幽、龍子を比べると所々に相違がありますが、重要な一つに、前者は、虎が水面の方を向いているのに対し、後者は睨みをきかせ画中の龍子に視線を向けていることです。警戒するように視線を向ける襖の虎と、それを鑑賞する画中の龍子が対峙する構図は、伝統的な「龍虎図」を新たな段階へと推し進めた龍子の巧みな表現が発揮されています。

■28メートルに及ぶ《逆説・生々流転》

本作のタイトルに用いられた「生々流転」は、横山大観の大作《生々流転》(1923年、東京国立近代美術館蔵)を引用しています。大観が水の一生を描き、自然が与える恵みを表現したのに対し、龍子はその「逆説」として水がもたらす自然災害の脅威に焦点を当てました。龍子が構想の源としたのは、1958年9月に伊豆半島を襲った狩野川台風による甚大な被害です。龍子は、伊豆・修善寺に別荘を所有していたことから、その状況を確認するため台風から4日後には現場へ赴き、この大災害取材しました。作品の展開は、台風発生 of 南洋に始まり、日本に上陸後広がる惨状を描き、最後は復興の場面で完結します。「逆説」は、厄災だけで終わらず、希望の兆しを示しています。

〇イベント

おしゃべり鑑賞会(対話型鑑賞プログラム)

開催日:12月22日(月)、1月26日(月)、2月16日(月) 各日14:00～

協力:社会福祉法人 大田区社会福祉協議会

詳細及び申込み方法は記念館ホームページから

第3回記念館講座「川端龍子と青龍社の女性画家たち」

日時:2026年2月21日(土) 13:30～15:00 会場:大田文化の森 ホール

〇作品紹介動画をYouTubeで順次公開しています

龍子記念館では、展覧会や作品紹介の動画を作成し公開しています。展覧会やギャラリートークに来られない方もご自宅にいながら龍子作品をお楽しみいただける内容となっています。

〇次回開催名作展 2026年3月28日(土)～6月7日(日)

併催:町立湯河原美術館所蔵 平松礼二作品展



大田区文化振興協会
募集情報からお申込み
いただけます



龍子記念館の動画
は、大田区文化振
興協会のYouTube
チャンネルから